



特集1

地域との連携強化で、
真の地と知の拠点をめざす。

特集2

楽しく学んで
社会人力アップ。

幸福丸



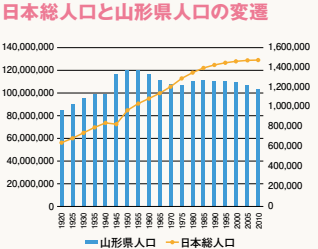
特集1

地域コミュニティの 中核的存在へ。 地域との連携強化で、 真の地と知の拠点をめざす。

山形大学は、文部科学省の平成25年度「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」に申請し、採択された。全国から319件の申請があり、採択されたのは52件。
 本学が掲げたテーマは「自立分散型(地域)社会システムを構築し、運営する人材の育成」。
 山形県のような人口減少県が直面する問題を解決するためには、各地域社会が独立性を保ちながら連携して持続可能な定常社会を構築する自立分散型社会システムを構築することが求められている。
 本学のCOC事業「自立分散型(地域)社会システムを構築し、運営する人材の育成」の概要と狙い、課題等について北野通世理事に聞いた。また、このプロジェクトのキーマンとなる2人のコーディネーターに事業の進捗状況や抱負について語っていただいた。

COCとは
 Center of Community [地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)]は、文部科学省の大学教育改革支援事業。大学等が自治体と連携し、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を目指す取り組みを支援する。地域を志向した教育、研究、社会貢献により大学改革と地域再生・活性化につなげる。

山形大学COC事業
「自立分散型(地域)社会システムを構築し、運営する人材の育成」とは
 人口減少をはじめとする山形県が直面する諸問題の解決には、各地域社会が自立性を保ちながら連携していく自立分散型社会システムを構築することが求められる。山形大学では県と6市町村と連携し、教育、研究、社会貢献の地域志向性を高め、その実現に貢献するとともに、運営していく人材の育成を目指す。



日本総人口は伸び続けているのに対し、山形県人口は1995年より減少傾向にある。

**地域に活気と質の高い人材を
学生には実践的な思考力を**

COC「地（知）の拠点整備事業」の狙いを端的に言えば、教育・研究の地域志向性を高め、「大学が地域の知の拠点」として、大学が自治体と協働して地域の課題解決に取り組み、さらにはそのための人材を育成することにある。そこで、山形大学では山形県の人口減少問題を大きなテーマとしてプロジェクトを立ち上げた。わが国の人口は今後約40年で現在の70%程度にまで減少すると推定されており、山形県も全国有数の人口減少県となっている。少子高齢化による生産年齢人口の急激な落ち込みや過疎化による行政サービスコストの増大等、今後直面する問題はさまざま。それら諸問題を解決するためには、社会・経済の拡大を前提に効率性を追求してきた一極（都市）集中型社会システムからの方向転換が必至。各地域社会の自立と連携が課題解決へのキーワードと言えそうだ。

本学のCOC事業「自立分散型（地域）社会システムを構築し、運営する人材の育成」は、大学の教育、研究、社会貢献の地域志向性を高めることにより、この自立分散型社会システムの構築に寄与し、運営していく人材を育成するというもの。つまり、大学の持てる「知」を新しい社会システムに最大限に活用することを目的とし、また、そのプロセスに学生を参加させることで、現代の若者に不足しがちとされている実践的思考力や問題解決能力を高めるとともに、地域への関心・愛着を醸成するという狙いもある。

**教育、研究、社会貢献の充実により
地域と大学の協働と連携をより密に**

本事業の核となる「教育」「研究」「社会貢献」、それぞれのポイントを解説しよう。まず、教育においては、地域をフィールドとした実習型授業や地域をテーマとした地域志向型授業、地域の問題をテーマに取り込んだ地域志向型授業等を数多く開設し、大学教育の地域志向性を高めていく。地域と連携した実質的な授業を展開することで、具体的な問題に取り組み、習得した知識を活用し、問題を解決していくという、座学では得られない実践的な能力を習得させることができる。こうした授業を通して学生の関心を地域に向けさせ、地域社会が必要とする人材を育成し、地域への定着に結びつけたい。

研究に関しては、地域が抱える課題を解決するための研究を「東北創生研究所」が窓口となって、地域と連携して実施する。また、地域の企業等との共同研究、地域の自治体、企業等からの受託研究を積極的に推進することで地域の活性化をバックアップ。さらに、これらの研究に学部学生・大学院生、自治体職員、企業の従業員等を参加させることで人材育成機能を持たせている。

最後に、社会貢献。もちろん、高校での出張講座や公開講座をはじめ、これまでも各教員や学部単位で社会貢献には取り組んできた。本事業ではそれを大学全体で組織的に行うことにより、その幅を拡大し、社会貢献の質・実効性を高めていく。また、学生・教職員のボランティア活動の活性化、

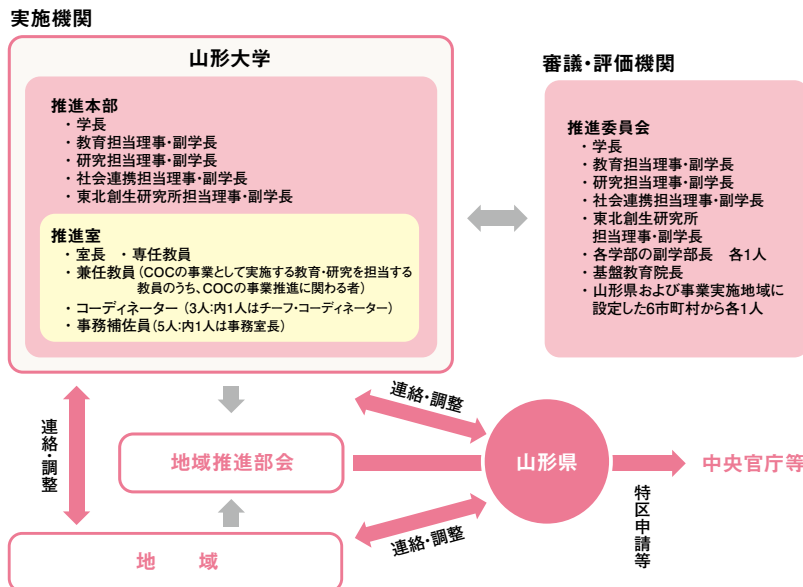
地域でのインターンシップの拡大、地域の学校教育・社会教育への積極的貢献、大学施設の地域への積極的開放等の施策を通して、大学と地域との関係の緊密化を図っていく。

**大学と県・6市町村が連携し、
課題解決のモデルケースに**

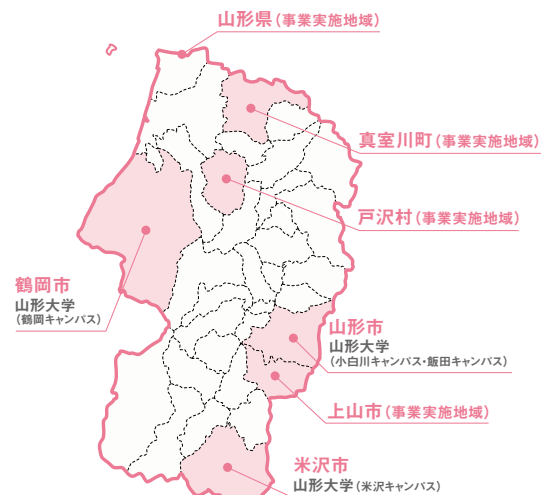
平成25年度に採択された本プロジェクトの事業期間は、平成29年度までの5年間。連携自治体は、山形県と山形市、米沢市、鶴岡市、上山市、真室川町、戸沢村の6市町村で、研究テーマは、「地方中核都市の機能維持・活性化」「積雪地帯におけるスマート・グリッドの構築」「6次産業化を中心とする農業生産システムの構築」「安全・安心で高付加価値の食糧供給システムの構築」「飼料用稲を用いた畜産を核とする農業生産サイクルの構築」「少子高齢化、医療資源過少地域における医療・福祉システムの構築」等。人口減少社会への対応が大きなテーマではあるが、自治体が抱えるさまざまな課題を基に設定した具体的なテーマは多岐にわたる。昨年11月に学長や副学長をはじめとする大学関係者と、山形県および連携自治体6市町村の代表者などで構成されるCOC推進委員会を発足した。

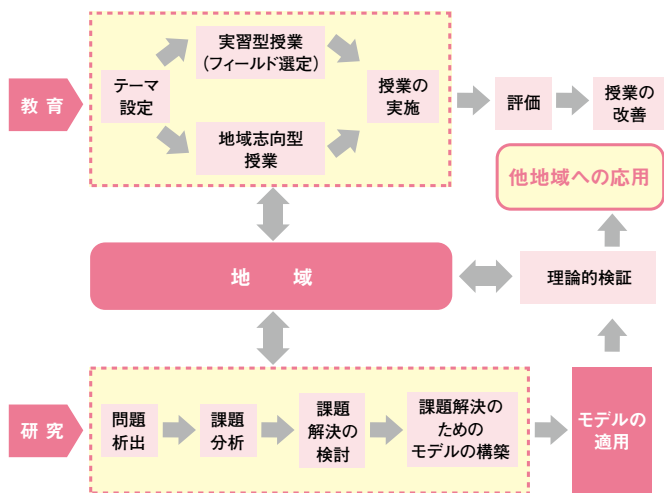
今年1月27日にはキックオフ・シンポジウムを開催し、東北大学教授の伊藤房雄氏による基調講演「地域づくりに向けたよそ者の役割」、「山形大学のCOC事業の目指すもの」をテーマとするパネルディスカッションを実施。今後、本格化する事業展開に弾みをつけた。

COC組織関係図



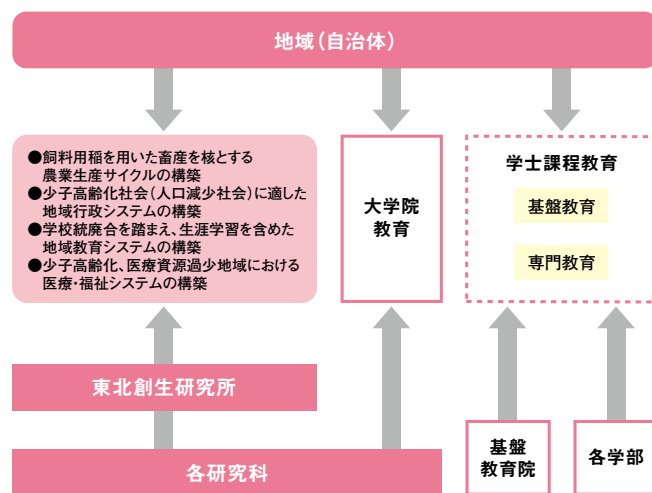
連携自治体





〔図1〕教育・研究の進め方

連携する地域で教育・研究を展開する際の流れ。学生たちはフィールドワークや地域志向型授業で地域の魅力や課題を学び、研究者は課題解決のためのモデルを構築。ともに地域のコンセンサス、協力のもと進められる。課題解決モデルは理論検証を経て他地域にも応用される。



〔図2〕COC事業の取り組み例

例えば、自治体から農業の生産性や少子高齢化に伴う学校や医療に関する課題が挙げられた場合を想定。東北創生研究所が中心となって、自治体と専門分野の教員とが協力し、課題解決を目指し、学生・大学院生も自治体でのフィールドワーク等でより実践的に地域と関わっていく。

今後の教育・研究の進め方は、「図1 教育・研究の進め方」が示す通り、教育・研究の両面で地域の課題にアプローチし、地域との連携を図りながら授業の実施、課題解決のためのモデルの構築を行っていく。研究によって構築された課題解決モデルは、理論的な検証を経て、他の地域への応用も考えられる。取り組み例としては、「図2 COC事業の取り組み例」のように、ある町が抱える問題の解決策を東北創生研究所が中心となって、専門の先生方と、地域とが連携して実施していくシステムとなる。「今まで地域は大学にとって研究の対象でしかなかったが、これからは、地域は活動の場であり、人材育成の場。大学を地域の一員、或いはリーダーとして認めてもらうためのCOCだと位置づけています」と北野理事。さらに、本事業のキーマンとして推進室に配属される3名のコーディネーターの存在を挙げ、大学と地域、県と地域や大学との連絡・調整等の重要性を強調した。

連携自治体との連絡や調整、カリキュラム改編等の準備にも着手

昨年末に着任したばかりの堀内史朗先生と小山田晋先生は、それぞれ現在上山市の山形大学総合研究所内にあるCOC推進室の上山サテライトと新庄市にある最上サテライトのコーディネーターとして活動を始めている。専門分野は堀内先生が数理社会



堀内史朗
ほりうちしろう ●COC推進室コーディネーター、博士(理学)、准教授/奈良県出身、京都大学大学院理学研究科博士課程修了。「農業・観光業と地域資源のネットワーク構築」の研究で地域志向教育研究経費に採択。

学、小山田先生は環境倫理や哲学で、着任早々から自らの専門分野の研究に取りかかると同時に、COC事業の本格的な展開に向けての準備を進めている。平成27年度からはCOC事業を反映したカリキュラム編成となるため、COC事業のキーワードとなるフィールドワーク重視の講義を増やすことが計画されている。その際の資料として利用するために平成25年度のシラバスから実習形式の講義を抽出して分類した上で、カリキュラム改編後のイメージおよびシラバスサンプルを作成した。

また、秋田大学や大阪市立大学、大阪府立大学、広島修道大学等、他大学のCOC事業に関連するシンポジウムに参加することでさまざまな取り組みを見聞きし、情報収集にも努めている。ただ、COC事業自体がはじまっただけで、いずれの大学も、教員や自治体職員、NPO関係者による講演やパネルディスカッション、あるいはCOCに関連する既存事業の報告に留まっており、事業そのものの成果報告は次年度以降に期待される。そんな中、学生が前面に登場し、学生チームによるコンペ形式で発表が行われ、優秀なチームを表彰するという手法をとっている大学があった。本学のキックオフ・シンポジウムでは学生の関わりがほとんどなかったことを反省点とし、今後の報告会等においてはこうした学生参加型の企画を取り入れていきたい考えだ。

一方、連携自治体との連絡・調整に関しては、地域推進部会を設けて、随時各市町村との部会を実施している。自治体の担当者にとっても初めての試みであるため戸惑いが見られ、部会の進め方や用意する資料等についても現段階ではコーディネーター

主導で行っている。

研究者でもあるコーディネーター COC事業に関連する研究で効率的に

一見すると、2人の先生の専門分野とCOC事業のテーマが結びつかないように思われるが、堀内先生によると「どんな質問をやっても何らかのカタチで地域に



小山田晋
おやまだしん ●COC推進室コーディネーター、博士(農学)、講師/北海道出身、東北大学大学院農学研究科博士課程修了。鶴岡の温泉地調査およびカリキュラム改編後の講義イメージやシラバスサンプルの作成を担当。

繋がる」ものらしい。現に、堀内先生と小山田先生は、現在共同で「農業・観光業と地域資源のネットワーク構築」というテーマの研究に取り組んでおり、数理社会学と環境倫理、それぞれの専門分野の知識やデータを生かして、鶴岡の温泉地にとって望ましい観光客誘致の在り方を模索している。これまで山形にほとんど縁のなかった2人だからこそ、気づき得る山形の魅力の発掘にも大いに期待が持てそうだ。

これまでも本学では「エリアキャンパスもがみ」を中心に多彩なフィールドワーク型授業を展開してきているが、COC事業として全学的に取り組むことでより魅力的なカリキュラムが用意されることになる。5年間ですべての課題を解決し、目標を達成することは難しいが、本事業を通して地域と大学との間により密接な信頼関係が生まれ、「何かあったら山形大学に相談すればいい」と人々が自然に口にするようになれば、それはまさに山形大学が、山形の地(知)の拠点となり得た証明となるだろう。



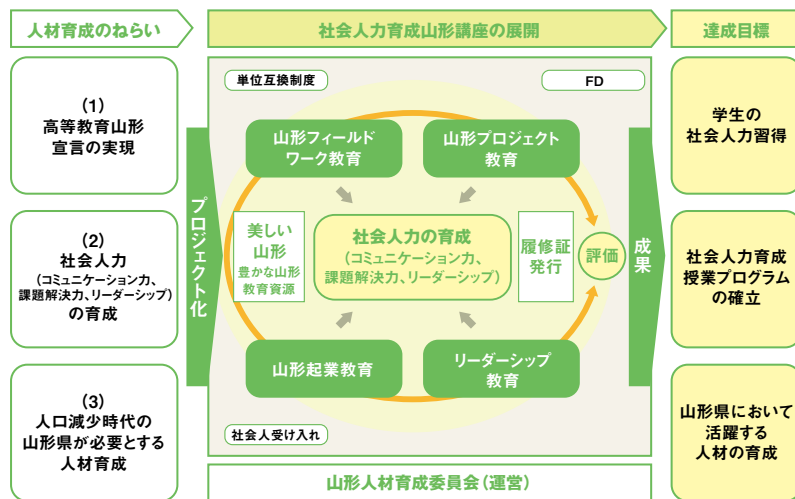
特集2

山形の多彩な地域資源を 取り入れ、魅力ある講座を展開 楽しく学んで社会人材アップ

「美しい山形を活用した『社会人育成山形講座』の展開」は、
文部科学省の平成24年度大学間連携共同教育推進事業に採択。
山形の自然、歴史、風土・文化、産業といった山形県内の多彩な地域資源を活用しながら、
学生の社会人力(社会人として求められている能力)を育成しようとする取り組み。
山形県内の高等教育機関、自治体および経済界が連携し、山形の地域社会で活躍し、
将来を担う人材の育成を目指す。開講から1年、実際に受講した学生たちの反応や成果、
今後の改善点等、次年度以降の講座内容の充実を図るために
山形大学の担当教員3名が初年度を振り返った。



社会人育成山形講座とは



山形講座4つの教育

山形フィールドワーク教育

山形県の地域の魅力（自然・文化・歴史・産業）を体験的に学習します。地元講師の指導やチームでの学習を通じて、コミュニケーション力・行動力・チームワークを育成します。

山形プロジェクト教育

地域の様々な課題を調査検討し、それに対する提案を行います。さらに課題の現地調査を通して地域の住民と接し、コミュニケーション力と課題解決力の育成を図ります。

山形起業教育

起業家精神やマネジメント手法、起業に関わる実践的な知識を学習します。さらに起業プロセスの体験を通して課題解決力、リーダーシップ等を育成します。

リーダーシップ教育

次の時代や社会を切り拓くリーダーシップ意識を作り出します。状況変化が生じて新たな問題に直面する場合の対応能力、チームを牽引できる力を育成します。

学生の社会人力（社会人として求められている能力）を育成するために、4つの分野の教育講座が用意されている。自分が強化したいと思う分野を選んで受講することができる。

国公立の枠を越えて 県内の高等教育機関で共同教育

「美しい山形を活用した『社会人育成山形講座』の展開」は、代表校である山形大学と連携校である東北芸術工科大学、東北公益文科大学、東北文教大学等が講座を実施。大学コンソーシアムやまがた内に組織された「山形人材育成委員会」が運営にあっている。本講座の狙いは、①大学コンソーシアムやまがたの高等教育山形宣言～美しい山形から「もう一つのつくり」を目指して～の実現。②社会人として求められている能力（社会人力）の育成。③人口減少時代の地域では、人材育成環境の劣化が加速していることから、山形県全体での人材育成の取り組み、以上の3つである。特に、②の社会人力の育成を主眼として、コミュニケーション力の向上、課題解決力の体得、リーダーシップ育成に繋がる山形講座を展開している。コミュニケーション力は、人が社会的存在である限り、より良い生活もしくはより働きがいのある仕事を行う上で不可欠の能力である。所属する組織や地域社会が直面している諸課題を組織目的にしたがってサービスやビジネス、マネジメントして解決する力も求められる。さらには、地域社会や企業等において、その組織や場を然るべき方向に牽引できるリーダーシップというものが必要と考えられている。



横井博

よこいひろし ● 渉外部教授／東北大学理学部卒業。研究テーマは組織の活性化、地域連携教育。社会人育成山形講座では「山形プロジェクト教育」を担当。平成26年度は「地域デザインin 東沢バラ公園」等5講座を開講。

山形講座は、山形県の魅力である自然や文化、地域づくりと出会う現地体験型教育の「山形フィールドワーク教育」、自治体・商店街・企業等における課題を取り入れたPBL型教育の「山形プロジェクト教育」、地域や社会の課題をビジネス・サービス等に転換する教育の「山形起業教育」、次の時代・社会を切り拓くリーダーシップ意識を育成する教育の「リーダーシップ教育」の4つに分類される。このうち、山形大学では「山形フィールドワーク教育」、「山形プロジェクト教育」、「リーダーシップ教育」の講座を担当している。

学生に気づき、地域に活気を生んだ 山形講座としてはじめの一歩

「山形フィールドワーク教育」担当の滝澤匡先生は、山形県の地域の魅力を、担い手の方々の指導により体験的に学習する「感じる山形～教科書の向こう側へ～」を開講。教科書だけでは知ることのできない情報を五感で学び、汗と苦勞の先に待つ喜びを肌で感じてもらうと準備を進めてきた。講座の趣旨を理解し、学生を受け入れてくださる地域の方々のお蔭で、初年度は8体験プログラムを開講した。志の高い学生が集まったこともあって、地域に向向って地元の人々と接する中で重点ポイントとしたコミュニケーション力もアップし、地域への関心もみるみる高まっていった。特に、「赤湯温泉まちづくり体験」を受講した学生の中には、赤湯での体験を自身の地元・庄内で展開してみたいという学生が現れた。また、県外出身者ながら山形県内での就職を希望するという学生も50人中21人が単位互換を利用した他大学の学生。受講した学生たちの満足度が非常



柴田孝

しばたかし ● 渉外部教授／東北学院大学工学部卒業。NEC 米沢開発部長、取締役等を経て、平成20年に山形大学産学連携教授に就任。多彩な人脈を生かし、「リーダーシップ教育」に大物講師陣が集結。

に高いことがわかり、講座の意義や成果に手応えを感じている。それ故に、ぜひより多くの学生に地域に飛び込んでさまざまな体験をしてほしいと考えており、2年目となる平成26年度はそのための広報に力を入れている。

「山形プロジェクト教育」担当の横井博先生の開講講座は「集落担い手養成プロジェクト」。東北文教大学の川教授との共同教育として、鮭川村の木の根坂集落と米集落を現地研修地域に決定。地域に入って地域の課題解決を目指す提案を行う講座で、その一連のプロセスを経て、課題解決力やコミュニケーション力、グループ内でのリーダーシップを育成する。この講座における最大のポイントは、地域を知り、地域の人とうまく話し合える関係を築くこと。短期間で地域の課題を把握し、解決対応提案を目指すため、提案そのものよりもプロセスにおける気づきやアイデアを重視。木の根坂集落、米集落、ともに受け入れ上手な集落であったため、学生たちもびのびと活動ができ、それなりの成果を上げることができた。学生たちが地域に入ることで一時的に活気が生まれ、集落の人々に喜んでもらえるようで、平成26年度も引き続き鮭川村での講座が継続されることになった。また、同じく横井先生が担当した「地域デザイン」は、地域課題を地域づくりの構想・企画に変える取り組みで、村山市の東

開講授業一例



感じる山形～教科書の向こう側へ～

山形県の地域の魅力(自然・文化・歴史・産業等)を担い手の方々の指導により体験的に学習。「コミュニケーション力」「行動力」「プレゼンテーション力」等が身に付く。

学生の反応や効果

多くの学生が講師の方々のご指導に感謝。初めて会う学生や世代の異なる講師とのコミュニケーションに不安があった学生も楽しめた。山形への愛着が深まったとの声も寄せられた。



集落担い手養成プロジェクト1

過疎地域社会の集落が、自らの課題解決を目指す集落担い手養成プロジェクトに参画。その地域が抱える課題を調査・検討し、課題解決能力やグループ内でのリーダーシップを養成。

学生の反応や効果

自分と相手の両方の立場に立って物事を考えられるようになったという学生や、解決策の提案には現状把握や地域の人々との交流が大事であることに気づかされた、という学生もいた。



リーダーシップ論Ⅲ

さまざまな分野のリーダーから体験を聞き、各人のリーダーシップ論を見直す。自分を深く省みるための寺院での座禅や写経、講義では運営を学生に任せ、リーダーシップを実体験。

学生の反応や効果

少人数の授業で講師との距離感がなく、互いの反応がわかりやすく、中身の濃い授業となり好評だった。各界のリーダーに直接話が聞ける希少な体験に学生たちの満足度も高かった。

沢バラ公園を題材に実施された。市民向けの対策や観光振興、施設整備のあり方等、多面的な課題を抱えており、学生にとっては難しい課題ではあるが、若い視点での発想・提案を望まれていることもあり、引き続き新年度も「地域デザインin東沢バラ公園」として開講する。

大物リーダーと車座で語り合える 目から鱗のリーダーシップ教育

学生たちが社会に出たときに“明るく元気にポジティブ”でいられるようにと、柴田孝先生がこれまでの経験と人脈をフル活用して展開している講座が、「リーダーシップ教育」の「リーダーシップ論」。一人一人が持っているリーダーシップ、フォロワーシップを理論的に説明することで理解を深めた後に、県内外で活躍するさまざまな分野のリーダーを講師に迎えての講義を受ける。結城学長、シェルターの木村社長、出羽桜の仲野社長、シベールの熊谷顧問…、その道の第一人者が名を連ね、その数なんと30名。リーダーとしての人生観や挫折からの脱出、学生時代の体験談等をテーマとした講義に続いて受講生が、各々学んだ事を3つにまとめ、グループ内で発表・議論して3つに絞り、全体で発表し合う。最後に、全員で議論して各人まとめてレポートを提出するという流れ。地元山形を拠点としながら国内外をフィールドに活躍しているリーダーと膝をつき合わせて語り合える、なんとも贅沢な講座を受講するチャンスが学生誰もが等しく持っているのだ。ある社長の話に感動し、決まっていた東京での就職をキャンセルし、山形県内で就活をし直したという学生もいた。

また、ベトナムでの海外研修でハノイ農業大学の学生と交流した体験をきっかけに、もっと英会話力を身に付けたいとニュージーランドに短期留学する者、ベトナムでの日本語チューターに名乗りを上げた者、学生たちの中に眠っていたチャレンジ精神を呼び覚ますには十分な刺激となったようだ。その他にも、「リーダーシップ論」には、自分の内面を見つめるための座禅や写経、心理学といった多彩なメソッドも用意されている。全国的に見ても希少な講座とあって既存の教材はなく、一から構築した柴田先生は、新年度に向けての軌道修正を検討する中で、学生たちに落ち着いて考える時間を与え、力をつけさせたいと考えている。それらの力を身に付けて地域に出て行くことで、地域により喜ばれる存在になれるからだ。2年目の講師陣にもビッグネームが予定されており、車座で語り合える範囲内で受講生が増えてくれることを願っている。

4つの教育のうち、もう一つの「山形起業教育」については、東北芸術工科大学と東北公益文科大学の先生方が担当しており、起業論やアントレプレナーシップ論、起業家ビジネス演習等、多様な講義を展開している。

大学から地域へ、地域から大学へ 依頼と協力、双方型が理想的

「美しい山形を活用した『社会人育成山



滝澤 匡

たきざわ けんじ ● 渉外部准教授
／ 岩手大学大学院連合農学研究科修了。博士(農学)、専門分野は応用昆虫学。米国ワシントン州立大学博士研究員等を経て現職。主に「山形フィールドワーク教育」を担当。

形講座』の展開」は、地域の協力が大前提となる。大学サイドから地域に協力を依頼するだけではなく、地域からこんな課題解決に大学の力を借りたい、学生たちの若い視点・感覚で企画に参加してほしい、そんなオファーが地域から大学にもたらされる、そういった双方向型の関係が理想である。新年度の山形講座についても公募を行ったが、応募は3件にとどまり、うち2件の課題に対して取り組むことが決まった。まだまだ地域の中に「大学に相談する」「学生の発想や行動力を活用する」といった選択肢が浸透していないのだ。この山形講座を2年目、3年目と継続して実績を作っていくことで、地域からのオファーも増えてくるに違いない。そうした理想型への先駆的な取り組みとして、山形講座を位置づけていきたい考えた。

本プロジェクトの期限は平成28年度。何をもって社会人力が育成されたかを評価するのは難しいが、前述のエピソードで知りうるだけでもさまざまな成果が見て取れた。手探りの1年目で見えてきた問題点をしっかり検証し、改善することで、2年目はより質の高い教育プログラムの実施が期待できる。山形講座の魅力が広く認知されれば受講生も年々増えていくことだろう。その一方で、山形講座の成果が大きければ大きいほど3年後のプロジェクト終了が惜しまれる。「複数大学の連携事業なのでこのままの継続というのは難しいですが、何らかの形で次につなげていきたいとは考えています」と横井先生。山形講座を通して学生や地域の人の中に気づきや反省が積み重ねられたことに意義があり、それらは講座の有無に関わらず人々の中でプラスに作用し続けるはずだ。

人文学部

Faculty of
Literature and Social Sciences

「ナスカ基金」を開設!



人文学部は、人文学部におけるナスカ地上絵の研究プロジェクトにおける教育研究の支援と、人文学部ナスカ研究所の施設整備等の環境改善支援のために、広く学内外からのご寄付を募ることを目的として「ナスカ基金」を設けました。

2012年10月にペルー共和国ナスカ市に山形大学人文学部附属ナスカ研究所を開所して以来、ナスカ研究プロジェクトは一段と発展しています。そして、新聞報道等を通じてナスカ地上絵研究の現在の姿は広

く市民の皆様を紹介されています。

その結果、企業・市民の皆様からご寄付をいただく機会も増えてまいりました。これは、ナスカ研究プロジェクトの学術的・社会的価値を認めていただいたことの証であると、心より感謝申し上げます。

今後とも、人文学部ナスカ研究へのご支援をお願いいたします。

ナスカ基金については以下のwebページをご覧ください。
<http://www-h.yamagata-u.ac.jp/nazca/kikin.htm>

地域教育文化学部

Faculty of
Education, Art and Science

改修工事仮囲いに 造形芸術コースの学生たちが壁画を制作



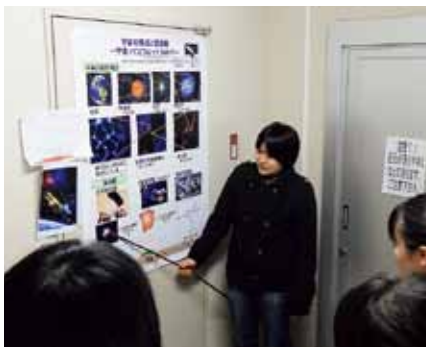
大学正門前の馴染み深い小白川キャンパスの銀杏並木道は、現在、整備・改修工事のための仮囲いに覆われています。大学キャンパスの理想的な姿は、教育・研究のための単なる施設の集まりということだけでなく、知的な営みとして、散策しながらでも思索できる潤いある空間が必要だといえます。昨年暮れに、銀杏並木の前に広がるこの殺風景な工事仮囲い壁に地域教育文化学部造形芸術コースの学生49名が壁画を描きました。工事仮囲いに壁画を描くこ

とで、行き交う人々が足を止めて、しばし語り合えるような潤いある空間が生まれたような気がします。大学院地域教育文化研究科1年の長谷川茜さんと地域教育文化学部1年の阿部萌水さんの原画と3年の齋藤堅太さんの文字デザインをレイアウトして、造形芸術コース所属の学生たちが、寒空のもと、一丸となって2週間で描き上げました。自然との共生をテーマとした壁画の前を歩きながら思索したり、友人と語り合ったりしていただければ幸いです。

理学部

Faculty of Science

女性研究者裾野拡大セミナー 「理学部の研究室を覗いてみよう」を開催



12月14日(土)、約80名の女子高校生を迎えて第2回・理学部女性研究者裾野拡大セミナー「理学部の研究室を覗いてみよう」が開催されました。9月開催の第1回セミナー(理学部で何が出来るの?女子高生のための山大理学部案内)の内容を踏まえ、今回は生徒が興味をもった学科を訪問して先端研究に触れました。

各学科では、数理科学科「数理モデルで自然現象の解明を」、物理学科「ようこそ物理学科の研究室へ」、物質生命化学科「物

質や生命現象を司る化学を「見る」、生物学科「ゲノムDNAに刻まれた『情報』を見てみよう」、地球環境学科「本物の宝石と偽物との見分け方ー結晶光学の知識を利用した簡便な判定方法と顕微レーザーラマン分析装置を用いた分析法ー」という内容で実験・講義が実施されました。参加者からは、大学での研究に初めて触れ、刺激を受けたという感想を聞くことができました。



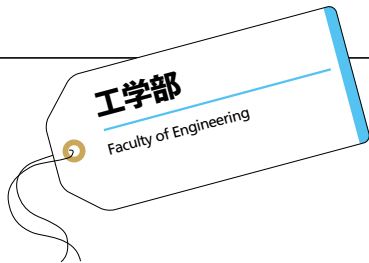
石坂公成先生による特別講演会を開催

医学部は、日本といわず世界の頭脳で本学特別招聘教授及び本学部客員教授として委嘱を受けておられる石坂公成先生から、本学部学生の学習意欲・モチベーション向上のきっかけとなるよう、先生が所蔵しておられる国内外で受賞された貴重な品々を寄贈いただけることとなりました。

これを記念して、石坂先生による特別講演会が12月4日(水)に医学部全学生を対象に開催されました。当日は、医学部学生や教職員等約800名の参加があり、医学部大

講義室のほか複数会場に映像を配信して行われました。石坂先生から、「教えられたこと、伝えたいこと」と題して、戦争中に学生生活を送った経験や免疫化学の道に進んだきっかけ、米国での研究への取組み、恩師との思い出やエピソード等について述べられ、自然科学、基礎医学研究者として、学生に対して熱いメッセージを送られました。

今回の特別講演会は、全国の医学生産の財産として、映像をDVDに収録し、全国の医学系大学にお届けする予定です。



古川英光教授が「ナイスステップな研究者」に選ばれる

独立行政法人科学技術・学術政策研究所(NISTEP)が選定する、科学技術の振興・普及において顕著な貢献をした研究者「ナイスステップな研究者」に山形大学大学院理工学研究科古川英光教授(機械システム工学分野)が選ばれました。ナイスステップな研究者という名称は「ナイス」と「ステップ」(飛躍)を組み合わせNISTEPにからめたものです。2013年は9組10名が選ばれました。

受賞内容は「産学連携による世界最先端

のゲル材3Dプリンターの開発」です。古川教授は医療や食品への応用が期待されているゲル素材を3Dプリンターで加工することに着目し、企業と共同で、液体材料を光で固めて造形する3Dゲルプリンターや、ゲル前駆体の粉末に紫外線照射することにより造形する装置を開発しました。さらに高強度ゲルの開発、ゲルの評価装置の開発に貢献し、これらの技術を使った人工血管や人工軟骨、手術の検証モデルの製造等が計画されています。



日本酒シンポジウムを開催

11月22日(金)、農学部301講義室において日本酒シンポジウム「oh!酒落に日本酒de Night」を開催しました。当日は140名を超える参加があり、オープニングは鶴岡市出身のシンガー深街エンジさんによる歌「もっけだの」(庄内弁で“ありがとう”)で和やかに始まりました。

第1部は「庄内日本酒を語る」をテーマにパネルディスカッションが行われ、夏賀副学部長をコーディネーターに、パネラーとして酒田酒造株式会社社長の佐藤正一氏、

竹の露代表社員の相沢政男氏、農学部から小関卓也教授が参加し、庄内の地酒の魅力や楽しみ方、学術的見地から体に有用な機能等紹介されました。

第2部の試飲会では、協賛いただいた庄内地域の酒造蔵元17社より17種類119本の地酒が用意され、参加者は数々の庄内の地酒を堪能しました。次回開催を望む声も多数寄せられ、大変有意義なイベントとなりました。



山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大学生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1 「テッド」の宣伝で雑誌の取材を受けた時に撮影してもらったもの。宣伝プロデューサーとしてTVや雑誌等で自分の言葉で直接視聴者に訴える場面も。そんな時は、こうしてテッド同席で華を添えてもらい取材を受けた。

2 海外のスターが来日する際は、このようにレッドカーペットを敷いた会場でイベントを行う。プロデューサーの仕事はタレントのケアやイベントの進行管理、取材陣の対応等、とにかく忙しい体力勝負の仕事でもある。

3 卒論のために「新庄祭り」の調査に取り組んだ大学4年の夏。とはいえ、祭り当日は街に繰り出してはしゃいでしまった。向かって左が佐藤さん、真ん中が同じく新庄市出身のご友人。彼は小さい頃から囃子として祭りに参加していた。

紆余曲折、少しずつ夢に近づいて今がある。 「遠い世界」を引き寄せ、憧れのプロデューサーに。

佐藤大典 東宝東和株式会社 宣伝プロデューサー

小学生の頃、映画『ジュラシック・パーク』に衝撃を受け、作品を生み出したスタッフに対して尊敬の念さえ抱いたという佐藤大典さん。今、その『ジュラシック・パーク』を生み出したユニバーサル・ピクチャーズのスタッフと一緒に仕事をしている。洋画の配給会社の宣伝プロデューサーとしてハリウッドで生まれた作品が日本でヒットする可能性を見極め、タイトル(邦題)やキャッチコピーの選定、ポスタービジュアル、予告編・CM制作等の宣伝戦略・予算を統括する、言わば大ヒット映画の仕掛け人。各分野のプロフェッショナルを集め、彼らの能力を最大限引き出すための環境を整えるオールマイティな資質が求められる仕事だ。

そんな佐藤さんは、本学人文学部で文化人類学を専攻。ナスカ地上絵の研究で知ら

れる坂井正人教授の講義をきっかけに冒険映画にも似たロマンを人類学に感じ、純粋な知識欲に目覚めたという。授業料免除資格がほしいという思いもあって勉学に励み、その傍らアルバイトにも精を出した。コンビニ、デパート、銀行、映画館等4年間で20種類近くのアルバイトを経験し、中でも冬期間の蔵王温泉スキー場での住み込みアルバイトではさまざまな面で大いに鍛えられ、コミュニケーション能力を高めることもできたと感じている。さらに、お祭りが大好きな佐藤さんは地元の新庄祭りや山形国際ドキュメンタリー映画祭にスタッフとして参加し、観客サイドでは感じられないスタッフならではの達成感、一体感を体験。新庄祭りは卒論のテーマとしても取り上げている。こうした学外体験も含め、大学でたびたび経験した

大勢の前でのプレゼンテーション、いろいろな人との議論等、それらすべてが人と話をする機会の多い今の仕事に役立っているという。

昨年は、『テッド』、『ワイルド・スピード EURO MISSION』という映画に関わり、自分の知識やアイデアが世の中に影響を与える達成感を味わうこともできた。佐藤さんは言う「遠い世界」と思われている世界は、実はそんなに遠くない。心から惹かれる世界に出会った時は「遠い世界」の話と諦めず、その世界で活躍する自分を妄想して、その自分に向けて行動してみたい。たとえ挫折しても微調整すればいくらいに樂觀的に考えて、恐れず色々な事にチャレンジしてもらいたい」と。就職活動の難航や2回の転職、失敗や挫折を乗り越えて夢をかなえた先輩の言葉だけに、重みと説得力が違う。

想像の成果

今回のランナー:



佐藤大典

さとうだいすけ●1983年、山形県生まれ。人文学部で文化人類学を専攻。新庄祭りを題材とした卒論で高評価を得る。現在、洋画配給を行う東宝東和の宣伝プロデューサーとして活躍中。



鈴木利規

すずきとしのり●人文学部法経政策学科2年。山形県出身。模擬裁判実行委員会42代実行委員長。経済を専攻するも法律にも関心大。第41回公演では広報広告を担当し、弁護士役も務めた。



田川友子

たがわともこ●人文学部法経政策学科2年。福島県出身。模擬裁判実行委員会42代実行副委員長。高校時代から舞台づくりへの憧れを持つ。シナリオ担当として法律の勉強にも余念がない。

学生主体で世相を反映した模擬裁判劇を上演、法律を学び、演技力を磨き、市民との交流を深める。

公演の成果

鈴木利規・田川友子 模擬裁判実行委員会

模擬裁判実行委員会(通称:もぎさい)は、40年以上の歴史を誇る人文学部の組織。かつて法律系のコースがなかった本学で、「法律を学びたい」という思いを抱いた経済系の学生たちが、法律系コースを作る布石としてこの模擬裁判実行委員会を立ち上げたというのだから驚く。以来、主に人文学部の学生が主体となって活動し、毎年、時代が抱える諸問題をテーマとした模擬裁判公演を行っている。裁判劇として広く市民に公開することで、自らの法的知識を深めるとともに、人々の法律や裁判への理解を深めてもらうという狙いもある。昨年12月には第41回模擬裁判公演「生活保護～救済か墮落か～」を上演。広報広告強化を目標に取り組んだ甲斐あって、観客動員数は前年の

1.7倍に達し、より大きな反響を得ることができた。また、今年度は、山形大学学生表彰を受け、学内でも高く評価された。

そのバトンを引き継ぎ、第42代模擬裁判実行委員会の実行委員長、実行副委員長となったのが鈴木利規さんと田川友子さん。「もぎさい」の存在を先輩から聞き、高校生の時から興味を持っていたという鈴木さんは、昨年の公演では広報広告を担当すると同時に弁護士役で舞台にも立った。演劇経験はなかったものの「もぎさい」に代々伝わる練習法で腹式呼吸やイントネーションを猛特訓。難しい法律用語も伝わりやすいようにゆったりとした滑舌の良い話術を身に付けた。一方、高校時代は合唱部だったという田川さんは、舞台づくりへの関心から「もぎさい」に参加し、

シナリオを担当している。裁判劇と言っても法廷シーンばかりではなく、約半分はその背景を浮き彫りにするための人間ドラマ。観客を惹きつける魅力あるストーリーと法律に則ったリアルな法廷シーンの両方が求められる。問題解決の参考にしようとメモを取る観客もいるというから責任は重大。そのため、専門の先生方や山形地方裁判所のアドバイスを受ける等、一般の演劇とはまったく違った難しさがあり、それが魅力でもある。

春、新入生を迎えて次回公演に向けての準備が本格的にスタートする。観客アンケート等も参考に決定した次回のテーマは「いじめ」。第42回模擬裁判公演では、どんな法廷ドラマを展開してくれるのか、今から楽しみに待ちたい。



1

1 公演の法廷内でのシーン。生活保護申請却下の際に、裁判を起こした原告と原告代理人の弁護士(写真左)と被告である市役所所長と被告代理人の弁護士(写真右)。ホールでマイクも使わずに堂々と演技。



2

2 公演当日の1～4年生の集合写真。実際に舞台上で演技をするのは十数名だが、これだけの数の学生がそれぞれの役割を果たし一致団結して、一年がかりで公演を作り上げている。



3

3 市役所所長を演じる1年の真鍋さん(写真左)とメイクを担当する1年の逸藤さん(写真右)。遠くからでも表情の演技がよくわかるように、舞台化粧を施している。細部にまでこだわっているのが見てとれる。

YU-AMS センターに新型システムを導入しました。

医学薬学分野への応用研究に期待！



高感度加速器質量分析システム

地球には、宇宙から放射線が定常的に降り注いでいます。大気の上層では、この宇宙線と大気との核破砕反応によって生成された中性子が大気中の窒素(^{14}N)に吸収され、炭素の同位体である ^{14}C が生成されています。炭素14 (^{14}C)は生成後、酸素とすぐに結合して二酸化炭素($^{14}\text{CO}_2$)になり、大気循環を経て光合成により植物に吸収され、食物連鎖により動植物に取り込まれます。生物がその生命活動を終わると、炭素は体内に取り込まれなくなります。自然界の炭素には、この炭素14のほかに、炭素12と炭素13があり(数字は、陽子数6と中性数6,7,8の合計)、その存在比率は、炭素12が98.9%で、炭素13はわずか1.1%、炭素14にいたっては0.0000000001%、つまり1兆分の1にすぎません。炭素12、13は科学的に安定しているのに対し、炭素14は不安定で約5,730年の半減期で窒素14に壊変し、時間とともに一定の割合で減少するため、年代を測定したいサンプルに含まれる炭素14の濃度(炭素12と14)の比率を調

べることで年代を測定することができます(この測定方法は放射性炭素年代測定法と呼ばれ、実証したシカゴ大学のリビー博士は1960年にノーベル化学賞を受賞しています)。

山形大学では、サンプル中の炭素14濃度を高感度かつ短時間に測定することができる高感度加速器質量分析(AMS)システムを山形大学総合研究所に導入し、高感度加速器質量分析(YU-AMS)センターとして運営しています。

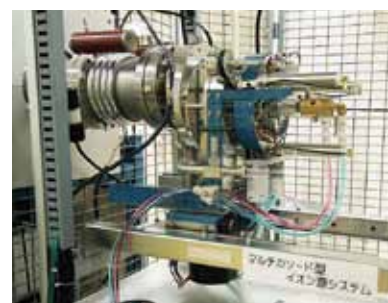
今年度3月にAMS法を新しく医学薬学分野の幅広い研究に応用するために、生体内からの微量サンプルから炭素だけをグラファイト試料として抽出する全自動グラファイト作成装置と、そのグラファイト試料をイオン化するイオン源装置を新たに導入します。これらの装置の導入により、AMS法を用いた国内の大学法人として初となる医学薬学分野研究の新しい展開が期待されます。



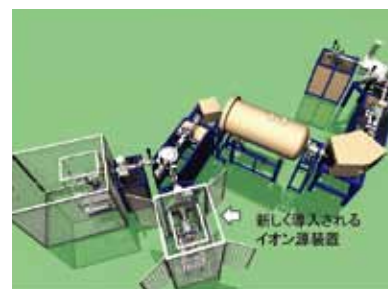
山形大学総合研究所



新しく導入される全自動グラファイト作成装置



新しく導入されるイオン源装置



2台のイオン源が設置されたAMSシステムの予想図

アンジェ大学(フランス)との大学間交流協定を締結

平成25年11月18日(月)、結城学長ら本学一行がフランスのアンジェ大学を訪れ、同大学と大学間交流協定を締結しました。

アンジェ大学で行われた調印式では、両大学関係者が見守る中で、結城学長とJean-Paul Saint-Andréアンジェ大学長が協定書にサインをし、両学長からは、本協定を契機として、留学生の相互受入や教員の共同研究等を積極的に進め、それぞれの大学の国際化及び教員・研究の充実につなげていきたい旨の挨拶がありました。

このたびの協定は、本学理学部地球環境学科リチャード・W・ジョルダン教授とアンジェ大学のFranciscus J. Jorissen教授との長年の研究交流をきっかけに締結が実現したもので、本学としてはフランスの大学とは初めての協定となります。

同大学が所在するアンジェ市は、フランスの首都パリから南西に約300km離れたユネスコ世界文化遺産に登録されたロワール渓谷の中心に位置し、豊かな自然とアンジェ城等の中世の建造物が残存する歴史ある都市です。

同大学は、1364年にチャールズ5世

によって設立。1807年にはナポレオンにより医学部と薬学部が設立され、1971年に総合大学となり、現在、8つの学部・研究所に約20,000人の学生が在籍しております。そのうち、11%が留学生という国際色豊かな大学で、同大学にとって日本の大学との交流協定は、上智大学、長崎大学につづく3校目となります。

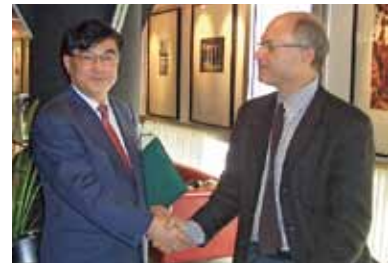
今後、同大学との教職員の交流・共同研究をより一層推進し、留学生の相互受入等学生間の交流も活発に行いたいと考えています。



美しい河畔に位置するアンジェ市



アンジェ大学理学部の建物外観



交流協定式の様子 結城山形大学長(左)、Jean-Paul Saint-Andréアンジェ大学長(右)

ロシア・ブリヤート大学に日本文学の本を送りました

人文学部 人間文化学科 アジア文化論
3年 寺崎彩

昨年の冬に、人文学部アジア文化論の学生が中心となって、ロシアのブリヤート国立大学東洋学部で、私たちと同じく日本文学を学んでいる学生の皆さんに、日本文学のテキストと研究書を、私たちが作成した解説・要約文を添えて送りました。山形大学の人文学部とブリヤート大学の東洋学部は、学部間交流協定を結んでおり、以前から交流がありました。今回、このプロジェクトを立ち上げたのは、そのブリヤート大学で日本文学を研究している学生の皆さんの意欲が非常に高いにもかかわらず、ブリヤート大学に日本

文学を研究するための資料が不足しているため、大変困っているというお話を聞いたことがきっかけです。同じ分野を学んでいる私たちも、学んでいく中で資料が手元にないという同じ歯がゆさを感じることがあり、何か力になれることがあればと思い企画しました。

プロジェクトを始めてみると、ブリヤート大学の皆さんが求めているものは何なのか、何を送ればいいのかと非常に悩み、この選ぶ作業が考えていた以上に難しいことを実感しました。手さぐりでの作業でしたが、私たちもブリヤート大学

の皆さんも、大学に入って文学の勉強を始めた学生という同じ立場にあるのだから、私たちがこれまで勉強してきた中で役立ったと思う本をおすすめするとよいのではないかと考えました。最終的には学生ならではの選書になったのではないかと思います。また、人文学部の先生方にもご協力いただき、関連する本を寄付していただきました。プロジェクトは無事終わり、ブリヤート大学の皆さんから感謝の言葉をいただきましたが、今後も刺激を与え合えるような仲間として交流を続けていきたいです。



送る本のラインナップについて何度も話し合いを重ねました



プロジェクトの進行をする寺崎さん



1人1冊担当を決めて紹介文を執筆しました

山形大学の行事・催事のご案内です。地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

小白川キャンパス トワイライト開放講座 (前期開講分)

小白川キャンパスにある人文学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を高校生の皆さんにも「トワイライト開放講座」として、広く開放いたします。この機会に、山形大学キャンパスで大学生と一緒にさまざまな講義を体験してみましょう！

	人文学部	地域教育文化学部	理学部
日時	4月～7月		
	毎週木曜日	毎週金曜日	
	16:30～18:00		
場所	各授業開講学部講義室		

講義内容

【人文学部】

「人間文化入門総合講義」
「総合講座Ⅲ(経済・経営)」

【地域教育文化学部】

「合唱」「絵画B」
「多文化共生概説」

【理学部】

「サイエンスセミナー」
対象／高校生(理学部の授業科目は一般の方にも開放します。)

受講料／無料

その他／詳しい内容は、開講学部のホームページに掲載します。授業の開始日や休講日等にご注意ください。

問い合わせ／小白川キャンパス事務局
地域教育文化学部事務室
(学務担当)

TEL 023-628-4309・4711

式典行事

平成26年度 山形大学入学式

日時／4月4日(金) 10:30～
場所／山形県体育館(山形市)

農学部附属やまがたフィールド科学センター 上名川演習林入山式

日時／5月6日(火) 11:00～
場所／農学部附属やまがたフィールド科学センター上名川演習林(鶴岡市)

公開講座等

人文学部

公開講座

グローバル時代への挑戦 ～等身大の留学体験～

日時／6月9日(月)・12日(木)・16日(月)
19日(木)・23日(月) 18:30～20:10
場所／人文学部1号館講義室
参加費／2,000円
問い合わせ／人文学部事務室
TEL 023-628-4203

理学部

小さな科学者 体験学習会 わくわく化学実験ランド

日時／4月20日(日) 10:00～12:00
場所／SCITA(サイタ)センター
(理学部1号館1階)
対象／小学4～6年生およびその保護者12組
参加費／無料
問い合わせ／理学部事務室
TEL 023-628-4505

公開講座

自然界がみせるふしぎな『回転』

日時／6月14日(土)・21日(土) 13:00～
場所／理学部先端科学実験棟4階
S401大講義室
対象／一般・高校生 80名程度
参加費／一般1,000円 高校生500円
問い合わせ／理学部事務室
TEL 023-628-4505

工学部

モバイルキッズ・ケミラボ2014

日時／5月～12月頃の土曜日午前
計14回程度
場所／米沢市理科研修センター
(置賜総合文化センター4階)
対象／主として米沢市内小学校4年生以上の児童と保護者
参加費／無料
その他／大学院理工学研究科(主として物質化学工学およびバイオ化学工学分野)の教員が実験指導を行います。
問い合わせ／米沢市理科研修センター
TEL 0238-22-5111
(内線6407)

農学部

わんぱく農業クラブ

日時／5月～11月 計7回(毎月1回土曜日)
場所／農学部附属やまがたフィールド科学センター高坂農場(鶴岡市)
対象／募集人員／市内小学校3～6年生の児童と保護者30組(先着順)

農場市

日時／6月中旬～12月中旬 毎週木曜日
12:00頃～
場所／農学部キャンパス(鶴岡市)

問い合わせ／農学部事務室(附属施設担当)
TEL 0235-24-2278

公開講座

農村地域の活性化実践 —集落営農組織による 集落農業の再構築—

日時／6月7日(土)・14日(土)・21日(土)・
7月5日(土)・26日(土)
12:30～17:30
場所／農学部講義室および鶴岡市行沢公民館
参加費／無料
問い合わせ／農学部企画広報室
TEL 0235-28-2911

附属学校

学習指導研究協議会

日時／5月29日(木)・30日(金)
場所／附属中学校(山形市)
対象／一般・学生の方 参加費／未定
問い合わせ／附属中学校
TEL 023-641-4440
日時／6月13日(金)
場所／附属幼稚園(山形市)
対象／一般・学生の方 参加費／未定
問い合わせ／附属幼稚園
TEL 023-641-4446

その他

平成26年度新入生保護者の皆様と山形大学との交流会

日時／6月28日(土)
キャンパスツアー(希望者) 11:30～
講演会ほか 13:30～16:10
懇談会 16:30～18:00
場所／小白川キャンパス(山形市)
問い合わせ／エンロールメント・
マネジメント部
TEL 023-628-4063

見つめて!感じて!
サイエンスマジック!

Re☆らぼ!

山大サイエンスカー



FRI (第1週)
21:00 - 21:30

Twitter,
Facebookも
始めました!!

県内の中学生に、最新の科学をわかりやすい実験を通じてご紹介!
生徒達に流行していること、学校の取り組みもインタビューします!

〈出演〉 栗山恭直 (山形大学理学部教授)、大屋香里 (エフエム山形アナウンサー)
〈周波数〉 山形 80.4MHz 鶴岡 76.9MHz 新庄 78.2MHz 米沢 77.3MHz

Rhythm
Station
www.rfm.html

印刷だけじゃない、田宮印刷。

TAMIYA
Graphic Communication

田宮印刷株式会社 山形市立谷川3-1410-1 ☎023-686-6111 www.tamiya.co.jp



広告掲載ご希望の方は、総務部広報室までお問い合わせください。TEL. 023-628-4010

(ご注意)

- ・この用紙は、機械で処理しますので、金額を記入する際は、枠内にはっきりと記入してください。また、本票を汚したり、折り曲げたりしないでください。
- ・この用紙は、ゆうちょ銀行又は郵便局の払込機能付きATMでもご利用いただけます。
- ・この払込書を、ゆうちょ銀行又は郵便局の渉外員にお預けになる場合は、引換えに預り証を必ずお受け取りください。
- ・ご依頼人様からご提出いただきました払込書に記載されたおとこと、おなまえ等は、加入者様に通知されます。
- ・この受領証は、払込みの証拠となるものですから大切に保管してください。

収入印紙
3万円以上
貼 付

印

この場所には、何も記載しないでください。

**「山形大学
未来基金」
ご協力のお願い**

山形大学は、「学生教育を中心とする大学創り」を基本理念に掲げております。これは、何よりも学生を大切にし、学生が主体的に学ぶ活気のある大学を目指すものであります。

主役となるべき学生が、存分に勉学に励み、そして、安心して学生生活を送れるよう、学生の教育・研究環境の支援等を目的に、平成20年度に創設した「YU Do Best 奨学金」制度は、今年で7年目を迎えます。

そして、この奨学金を安定的かつ適切に運営し、山形県、さらには我が国の「知の拠点」として多くの優秀な人材を輩出するという大学としての責務を確実に果たすべく「山形大学未来基金」を発足させています。

山形大学の教育は、皆様からの入学金・授業

(本件についてのお問い合わせ先)

山形大学総務部総務課 / 〒990-8560 山形県山形市小白川町一丁目4-12

電話 023-628-4006 FAX 023-628-4013 E-mail somsomu@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

料と、国からの運営費交付金で賄われていますが、この運営費交付金が毎年削り込まれていきます。厳しい財政事情の中で山形大学の教職員は、教育の充実のために全力で努力しているところです。

そこで、大変に厚かましいことではあります。皆様へ「山形大学未来基金」へのご寄付をお願いしたいと存じます。このページの下部に添付されている振り込み用紙を使い、可能な範囲でのご協力をお願いいたします。

何卒、本基金の趣旨にご理解いただき、格段のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

平成26年3月

山形大学未来基金事務局

編集後記 Editor's Note

共同研究をしている中国の友人から、奥様とのツーショット写真が送られてきました。上海の近くだそうで、まるで未来都市のような風景にびっくりしました。上海もここ30年で劇的に発展した都市の一つです。そういえばシンガポールも20年前に行ったときには、工事中のところがたくさんありましたが、見違えるように綺麗なビル群が立ち並んでいます。日本も頑張らねばと思ったりします。さて今回のみどり樹も話題満載です。特集1・2では地域社会における山形大学の取り組みがわかります。理学部発のAMS(高感度加速器質量分析装置)にも注目したいです。今回も字数の関係で全部は書ききれませんが、小白川キャンパス工事現場の仮囲い壁に描かれたカモ達の秘密も明かされます。私も2年間の編集委員を終え、今回が最後です。これまで支えてくださった皆さんの皆様、ありがとうございました。(みどり樹編集委員会委員 H.S)

表紙の
ことば
(上段) 鮭川村の木の根柢集落における学生現地調査のひとつ。繁忙期のため立ったままでのインタビューとなる。学生は、集落の方々と淡々と話し合う中から思わぬ「気づき」という恩恵を得る。
(下段) 東日本大震災以降、宮城県塩釜市にある桂島で行っている体験型授業のひとつ。復旧から復興に向けて地元の方々と学生が協働して「浦戸諸島桂島観光再生ツアー」を企画・運営している。

- この「みどり樹」は山形大学ホームページでもご覧いただけます。
山形大学 みどり樹 検索
- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にどうぞ。E-mail: kohono@m.kj.yamagata-u.ac.jp
- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

一地域に根ざし、世界を目指す一



山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>

02	仙台	払込取扱票				通常払込料金 加入者負担					
口座記号番号		金額		千	百	十	万	千	百	十	円
0	2	2	6	0	7		9	2	4	7	8
加入者名 国立大学法人山形大学		料金		備考							
<p>「山形大学未来基金」申込書</p> <p>※1口1,000円、1口以上でお願いいたします。</p> <p>※この払込用紙は、1人(または団体)1枚をご使用ください。</p> <p>※個人情報の利用について 提出していただいた書類の個人情報は、本事業に関する手続きのみに使用し、第三者に開示・提供・預託することはありません。ただし、ご承諾いただける場合は、寄附者の方々のご芳名を本学ホームページに掲載し、永く本学の歴史に刻まさせていただきます。</p> <p>ご芳名のホームページ掲載について、<input type="checkbox"/> 承諾する <input type="checkbox"/> 承諾しない(※いずれかをチェック願います。)</p> <p>※お礼状・領収証明書の発送に必要ですので、おとこ、おなまえのご記入をお願いいたします。</p>											
おとこ(郵便番号)		日		附							
※おなまえ		様		附							
(電話番号)		印									
裏面の注意事項をお読みください。(ゆうちょ銀行)(承認番号仙第8982号)											
これより下部には何も記入しないでください。											

記載事項を訂正した場合は、その箇所に訂正印を押してください。
切り取らないで出してください。

振替払込請求書兼受領証

口座記号番号	0	2	2	6	0	7	通常払込 料金加入 者負担
加入者名	国立大学法人山形大学						
金額	*						
ご依頼人	おなまえ						
	※						
料金	日 附 印						
備考							

この受領証は、大切に保管してください。

各票の※印欄はご依頼人において記載してください。